

ふたばっ子とともに

R5. 6. 16

少し時間が経ってしまいましたが…

去る5/27(土)に、「ふたばっ子チャレンジタイム(運動会)」を行いました。本年度は、4年ぶりに全校一斉の集合開催で行うことができました。保護者や地域の皆様の参観にも制限を設けず、子供たちが、はつらつと競技や演技に臨む姿を、多くの方々に見ていただくことができました。

今年度の「ふたばっ子チャレンジタイム」、見た感じは、以前から行ってきた運動会や昨年度までのチャレンジタイムと変わらないのですが、実は、この行事の企画、準備、練習、そして当日まで、今までとは大きく変えた点がありました。では、何が変わったのか…今回は、そのことについてお伝えします。

「やりたいこと」に挑戦する②～ふたばっ子チャレンジタイム～

「ふたばっ子チャレンジタイム」という学校行事のねらいや実施方法を、職員の中心となって提案し、実施に向けて調整するのは、体育主任です。

4月の早い段階で、今年度のチャレンジタイムの方向性について相談がありました。その際、私は、いくつかの要望を体育主任にしました。

それは、次のようなことです。

- ①この行事で、どんなことを目指すのかを明確に示してほしい。
- ②コロナ禍前の運動会ではなく、時代の変化を見据えた新しい運動会に転換していくことを目指してほしい。
- ③子供たちが「やりたい」という気持ちを活かした競技や演技を考えて、進んで準備や練習に取り組めるようにしてほしい。 等

体育主任は、他の職員と話し合い、

- ①今年度のチャレンジタイムのねらいは「学級づくりと仲間づくり」とする。
- ②①のねらいに合わせて、縦割りグループでの種目を実施する。
- ③各学年団で、発達段階に応じて子供たちと先生が話し合い、どのような競技や演技を、どのように行うかをきめる。
- ④子供たちの「やりたい」という気持ちを第一に考え、役割分担を決めていく。
- ⑤教職員は子供たちが自分たちの思いや願いを実現させるサポートをしていく。

等、本年度のチャレンジタイムの方向性を、全職員に示してくれました。

それを受けて各担任は、子供たちとともにチャレンジタイムに向けて動き出しました。

各学年団で取り組んだ種目は、徒競走、僥倖種目、団体演技でした。

学年団がそれぞれ、ねらいの達成を目指してどのような工夫や手立て、支援を行ったのか。また、子供たちの「やりたい」という気持ちは、どのような形で現れ、実現に結びついたのか等について、先生方に語っていただきました。その一部を紹介します。

1・2年生

【徒競走】

- ・1年生の仲間づくりを目指して、わかば学級の子供たちを背の順の中に組み込み走るレースを決めました。



【僥倖種目】

- ・「投げる」をしたい、と言った児童の気持ちにピッタリだったと思います。「勝ちたい」よりも、「籠をいっぱいになりたい」という思いをもつ児童が多かったため「合わせて〇個」を目指すようにしました。



【団体演技】

- ・曲は何かがいいか意見を出し合いました。リーダーを立て、最後のポーズを考えたり、ポンポンの色を相談したりしました。

- ・子供たちが曲をすごく気に入って、休み時間にも口ずさんでいました。子供たちが気に入っている曲なので、練習開始から本番直前まで「踊りたい、練習したい」という思いが持続していました。



- ・大きな声で「こっちだよ」「動いて」「行って」と伝えるのではなく、トントン、と優しく肩を叩いたり、「行くよ」と小さな声で言ったりして、動きをスムーズにしていました。

3・4年生

【傍種目】

- ・障害物リレーでは、実情に合わせてよりよいルールにアップデートされました。実行委員が決めたコースを、最初の練習から、子供たちがとても楽しそうに、生き生きと走っていました。他のチームの友達でも、走っている友達のことを全力で応援する姿も見られました。



【団体演技】

- ・最後の決めポーズはみんなでそろえた方が「協力した」と感じるという意見から全員でそろえました。
- ・お手本として、前で踊っていましたが、「先生が踊らなくても踊れるよ」「お手本なしでやりたい」という声が挙がりました。
- ・ノリノリで楽しそうに踊ってほしいという思いから、練習の時に、楽しく踊っているところを見せてほしいと、みんなの前で踊ってくれる子を募集しました。3、4年生それぞれから10人ほどの子が前に出て、ひたむきに、笑顔で頑張る仲間の姿を練習の中で共有しました。



5・6年生

【傍種目】

- ・実行委員を立てることで、主体的に活動する姿を保護者の方にも見せることができましたと思います。
- ・話し合いを通して、「高学年らしく協力する姿を見せたい」という思いがまとまったので、それに合った傍種目を考えさせると「今年も大玉を自分たちでやりたい。」との声が多く挙がり、決まりました。



- ・グループ決めは、やる気のある数名の子供たちに任せました。彼らは、「男女関係なく、誰とでも気持ちよく戦える集団になってほしいから、番号順で上からふっていきこう。」と言ってグループを決めていました。
- ・セリフもおおまかなものは私が用意しましたが…
「実況を加えたい。(6年女子)」「最後はアドリブを加えたい。(6年男子)」と、それぞれに思いをもって取り組んでいました。



【団体演技】

- ・子供たちが2種類のダンスを踊りました。最初に簡単なダンスを一生懸命覚えていたのですが、少し難しいダンスも選べるようになったら、「挑戦したい」と今まで覚えたダンスにこだわらず、さらに練習を頑張っている姿を見ることができました。
- ・「高学年のダンスは難易度を上げたい」という声を聞きました。向上心を感じました。
- ・組体操で人数が足りず、他の子たちと同じ演技が組めなかった時、子供たちから「似たような形でこんなものにしてみたい」という提案がありました。
- ・組体操の最後のポーズの際「声を出したい」というアイデアがあったため、取り入れました。





全校種目・その他

- ・フープ送りはお試し感が満載の種目でしたが、今後もレベルを上げていけそうな種目だと感じました。レクリエーションを取り入れる可能性を感じました。
- ・委員会、なかよしグループごとに話し合いをさせて、自分たちのチームで「やりたいこと」に挑戦させました。（自分たちから思いついたように任せました。）
例…放送委員の目標発表・給食委員の放送・放送委員のラジオ体操・なかよしグループの旗づくり など



いかがですか。職員側からの声ですが、どの学年、クラスも子供たちの「やりたい」という思いを出し合い、みんなで話し合っただけでなく、主体的に競技や演技の練習に取り組んだり、様々な準備が進めたりしたことや、一人一人の力に合わせたり、持ち味を活かしたりしながら参加できるように、全ての活動が当日までより良い形を目指してアップデートされていたことがお分かりいただけるのではないかと思います。

ふたばっ子チャレンジタイムを通して学んだ子供たちの声は、一人ひとりの振り返りのカードに記入されています。どの子のカードにも「自分なりの」頑張りや満足感、達成感を味わったことや、学級の友達や全校の仲間と協力したり、励まし合ったりしながら、全力を出し切れた楽しさや嬉しさが語られていました。

また、保護者の皆様に御協力いただいたアンケートには、子供たちの一生懸命な姿や学年を超えてつながる心温まる様子などをご覧になって、子供たち一人ひとりが輝くと同時に、双葉小学校の良さも感じられる行事であったことをお伝えいただく感想があふれていました。ありがとうございました。

新たな時代に生きる子供たちを育てるために…

本校として、今回の「ふたばっ子チャレンジタイム」で目指したことは、ほぼ達成できたのではないかと考えています。

子供たちの「やりたい」という気持ちを大切にしながら行う「ふたばっ子チャレンジタイム」。来年度は、どのようなスタイルになっていくのか…子供たちの成長とともにとても楽しみです。

職員の振り返りの中に、次のような思いが語られていました。

- ・自分たちが頑張ったことを振り返っている中で、自然に、上級生はすごい、という発言が出てきました。一生懸命にやりきること、それを周りの人に認めてもらうことを経験すると、こちらが仕組みなくても、子供たちの目は、自然と次の目標を捉えることを改めて実感しました。
- ・学級目標である「なんでもチャレンジ」という言葉をたくさん聞くことができた1か月でした。チャレンジタイムの練習だけでなく、授業、生活の中でも「チャレンジしてみようよ！」と前向きに言葉掛けを子供同士でしている姿を見ることができました。チャレンジタイムに向けて、クラスみんなで頑張ろうとしている思いを感じることもできました。4月と比べると、周りの人に興味をもてる子が増えた気がします。自分のことはできているから…で終わってしまっただけで、友達のことまでは気にしない子が多かったのですが、チャレンジタイムを通して、友達のことでも考えられる子が増えてきたと思います。

この振り返りには、行事を通して学ぶことの良さや広がり、また、全校児童が集って行う活動の意味等が語られています。

学校行事は、大きく子供たちを成長させます。その分、その実施のために掛かる労力は子供たちも職員も、御家族の皆様にとっても大きいと思われるのですが、それでもその意義や価値の大きさを考えると、きちんと企画をし、準備を進めて実施していくことが大切なのだと考えます。

なお、今回「ふたばっ子チャレンジタイム」で大切にした「子供たちの『やりたい』という思いを活かして活動を進める」という方針は、今後予定している学校行事にもつなげていくことはもちろんですが、それぞれの学年や学級ごとの活動や、全校児童の日常生活においても浸透するよう働きかけながら、自分が向き合う「ひと・もの・こと」に対して、主体的に取り組める子供たちを育てていきたいと思えます。